

19 稿「プロボノの弁護士」

離婚やDV、親権などについて法的に対処する時、専門家である弁護士が必要ですが、その費用を捻出することが難しいという方も多いと思います。この稿では所得が少なく資産がない方のための「プロボノ」（各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動）の弁護士の探し方をご紹介します。MA州の弁護士は年間25時間のプロボノか、所得の一定以上をコミュニティに提供することが定められています。

検索し、連絡する

まず、MA州の場合、www.masslegalservices.org/findlegalaidなどのページから自分の地域や所得制限、問題の内容をカバーするリーガルエイド団体を検索します。出てきた団体の指示に従い、電話かオンラインで申し込みをします。メッセージが残せるようでしたら必ず残します。最近の資金不足により現在受け付けていないというテープが流れたり、呼び出し音に全く応答がない場合もありますが、がっかりせずに申し込めるところはすべて申し込みます。

詳細の聞き取りを受ける

詳細の聞き取り後、このケースを受け付けてもらえるかの返事があります。団体によっては簡単な内容の支援—協議離婚、簡単な親権、接近禁止令の申し込みなど—しか受け付けないという場合もありますが、そこから提携している一般の弁護士事務所に紹介され、彼らのプロボノの枠で受け付けてもらえる場合もあります。この詳細の聞き取りの時、必要な場合は通訳を依頼することもできます。最初の団体で一度、また次の弁護士事務所で一度と何度も聞き取りが行われる場合もあります。利益相反がないかが確認され、引き受けるかどうかの返事が届きます。

プロボノの弁護士が決まったら

ここからは一般の弁護士との関係と同じです。自分の問題をさらに話し合い、法的な対応へと進めていきます。プロボノの弁護士によって使える時間が制限されていたり、できる支援が制限されていたり、と最終的に解決するまでに途中から別のプロボノ弁護士に移行することもあります。辛抱強く進めましょう。

プロボノの弁護士が決まらなかったら

再度同じプロセスで他のリーガルエイドに連絡をします。あるいは一般の弁護士に連絡し、後払いができないかなど交渉してみましょう。

プロボノの弁護士を見つけるには、根気と時間が必要です。急ぐ問題の対処には向かないこともありますので、お気をつけください。ただしDVなど緊急性がある場合は、各家庭・検認裁判所に法律相談の弁護士やDVエージェンシーの弁護士が定期的に駐在しているので、その時間に裁判所を訪問してください。

(JB Line/渡邊)